

# ヒロシマの日のテレビニュース分析 子ども・若い人と高齢者の表象

登丸 あすか\*

本稿は、2024年8月6日にテレビのニュース番組で放送されたヒロシマの日のニュースを分析し、その結果を報告するものである。日本は第二次世界大戦末期に原子爆弾（原爆）が投下され、今日においても世界で唯一の被爆国である。8月6日はヒロシマの日、8月9日はナガサキの日、そして8月15日には日本が全面降伏することが発表された終戦の日とされている。8月はメディアにとって戦争や平和をテーマとして報道や番組を放送することが慣例化している。先行研究においては、ヒロシマの日のニュースでは被爆者を中心に高齢者を戦争の悲惨さを伝える存在として、また子どもや若い人を将来の平和の担い手として提示されてきたと報告されている。2024年は戦後79年の年であり、被爆者や戦争経験者の高齢化はますます進み、これまでと同様に高齢者へ焦点を当てることで戦争の悲惨さを提示する手法には限界があるのではないかと考えられる。そこで本論文では、2024年8月6日のテレビニュース番組を分析対象に、子どもや若い人および高齢者の表象を明らかにする。ニュース分析の結果、戦争経験者や被爆者は90代と著しく高齢でありながら、過去の報道と変わらず、戦争の悲惨さ、平和の重要性を伝える存在として提示されていることが確認された。

**Key words：**戦争とメディア、ヒロシマ、ニュース、高齢者、子ども・若い人

## 1. ヒロシマの日のニュース

### 1.1. 戦争とメディアの関わり

8月ジャーナリズムといった言葉が用いられるように、日本ではマスメディアを中心に8月になると戦争と平和に関する報道が多くなされる。周知のとおり、日本は世界で初めての原子爆弾（原爆）が投下された、唯一の国である。8月6日はヒロシマの日、8月9日はナガサキの日、そして8月15日には日本が全面降伏することが玉音放送によって発表され、終戦の日とされている。こうした経緯から、8月はマスメディアにとって戦争や平和をテーマとして報道や関連番組を放送することが慣例化してきた。新たな資料を元にしたド

キュメンタリーが放送されたり、戦争をテーマとした映画、ドラマが流れたりもする<sup>1)</sup>。またその背景には、第二次世界大戦に歯止めをかけることができなかったという反省があり、戦後メディアの在り方を問う時期ともなった（松田 2001：220）。

### 1.2. ヒロシマの日

なかでも、8月6日は世界で初めて原爆が投下された日として大きく注目される。毎年同日に行われる広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式（以下、平和記念式典）は朝からNHKで生中継され、その日のニュースとして夕方や夜の時間帯のテレビ、同日の新聞の夕刊、翌日の朝刊などで報じられる。8月6日は日本から世界へ戦争の悲惨

---

\*人間学部コミュニケーション社会学科

さ、平和の重要性を訴える機会として位置づけられているのである。こうした報道の中で、戦争経験者や被爆者の証言、体験談などが数多く報じられてきた。しかし、戦争経験者の高齢化が進み、かつてのような報道の在り方は限界を迎えているのではないかと考えられる。本稿では、日本から世界への平和のメッセージとして、いわばステレオタイプ化された表現について再考することで、戦争を報じる際の報道の在り方について考える一助としたい。

## 2. ヒロシマのニュース分析

### 2.1. 戦争とメディア研究

戦争とメディアの関わりは深く、第一次世界大戦後のプロパガンダ研究や従軍報道の在り方など幅広く行われてきた。この領域では、メディアの発展と戦争との関係を歴史的に振り返り、理論の整理が行われてきた（例えば、佐藤 1998、橋本 2006）。

もう一方は、戦争をテーマとした映像に関する研究である。酒井（2007）は、戦後に制作された映画やドキュメンタリーを通して、どのように敗北と共感を得てきたかを分析している。また、井上他（2007）は第二次世界大戦後60年の国際ニュースの比較分析を行っている。具体的には12カ国における2005年8月の新聞を分析しており、井上によれば、原爆に関する知識は国によってさまざまであり、それはその国の政治状況に大きく影響されるという。原爆の悲惨さが共通認識としてあるものの、ヒロシマからの平和のメッセージが国際的に共有されているとは言い難い（Inoue 2006：126）。

原爆の被害は甚大であり、多くの人が殺され、傷つけられただけではなく、放射線障害後遺症、家族崩壊、精神的トラウマ、社会的差別など、深刻な人権侵害を引き起こすものとして捉えられてきた。戦争体験者や被爆者はそうした原爆の悲惨さを象徴する存在としてヒロシマのニュースで提示されてきた（Tomaru 2013）。被爆者らの実体験や証言をもとに平和の重要性を訴えることは日本のメディアの役割の1つと言えるだろう。しかし、

被爆者や戦争経験者の高齢化がますます進む中で、これまでの報道の在り方は限界を迎える時期にある。こうした状況を踏まえて、本稿では2024年8月6日のニュースを分析することで、戦争に関する表象、とりわけ高齢者像に変化が見られるのかを検討したい。

### 2.2. 方法

ここでは、ニュースメディアの登場する人物に焦点を当てて分析を行う。ニュースメディアには、記者やニュース番組のキャスターなどメディアを報じる側と、会見や取材を受けてインタビューに答える人物などニュースで取り上げられる人物の2種類がある。本調査では、戦争や平和を報じる際の表現について検討するため、登場する人物に焦点を当てて分析する（Maccharia 2020、鈴木 2013）。

調査の手順としては、まず2024年8月6日のテレビのニュース番組を一斉に録画した。そして、各番組の構成を明らかにするために番組全体の内容を書き出した。さらに、各番組のニュースをテーマ別に整理して時間を算出した。そしてヒロシマに関する報道を抽出した。さらに、ヒロシマを扱ったニュースの内容を文字化し、登場人物に焦点を当てて、ジェンダー、年齢層、エスニシティの観点から分析を行い、クローズアップされる人物、発言する人物とその内容について分析を行った。

## 3. 調査結果

本節では、ヒロシマの日のテレビニュースの分析結果について報告する。分析対象は2024年8月6日の夜の時間帯に放送されたテレビニュース番組である。毎年8月6日には未明から平和記念公園を多くの人が慰霊のために訪れる。朝から行われる平和記念式典および、その後の政治家の会見などを収録したテレビニュースが夕方の時間帯、夜の時間帯に放送される。夕方の時間帯には平和記念式典全体を報じる傾向にあるが、夜の時間帯には平和記念式典の模様だけではなく、戦争や平和に関する特集が組まれることも多い。

### 3.1. 分析対象番組とヒロシマのニュース

本稿では、戦争の悲惨さや平和を伝える上でどのような表現がなされているかを検討するために、平和記念式典のニュースをストレートに報道しがちな夕方の時間帯ではなく、多様なアプローチで特集が組まれる傾向にある夜の時間帯を対象とする。具体的な分析対象は表1のとおりである。

表1にあるとおり、分析対象番組は公共放送であるNHKの夜のニュース番組『ニュースウオッチ9』、民間放送局2局、TBS『ニュース23』、テレ

ビ朝日『報道ステーション』の計3局である。夜の時間帯のニュース番組はいずれも1時間前後であり、夕方のニュース番組よりも比較的長い<sup>2)</sup>。

表1 2024年8月6日夜の時間帯のニュース番組一覧

No.	番組名	放送局	放送時間
1	ニュースウオッチ9	NHK	21:00-21:59
2	ニュース23	TBS	23:00-23:56
3	報道ステーション	テレビ朝日	21:54-23:09

表2 2024年8月6日の夜のニュース番組で扱われるテーマの時間量と割合

テーマ 放送局	政治	経済	戦争・紛争	暴動	事件・事故	スポーツ	天気
NHK	0:06:53	0:07:08	0:14:13	0:00:37	0:00:22	0:17:57	0:11:44
TBS	0:02:44	0:06:09	0:07:44	0:04:33	0:02:24	0:24:26	0:01:22
テレ朝	0:05:05	0:08:57	0:13:57	0:06:36	0:05:37	0:12:46	0:05:48
計	0:14:42	0:22:14	0:35:54	0:11:46	0:08:23	0:55:09	0:18:54
割合	8.8%	13.3%	21.5%	7.0%	5.0%	33.0%	11.3%

表2は放送局別に夜のニュース番組で扱われるテーマを整理したものである。2024年8月6日はパリオリンピックの開催期間中であり、通常の日とのニュースよりも「スポーツ」に占める割合が高い。テーマ別にみると、33.0%と最も高い割合を示している。番組の前半でパリオリンピックの報道を行い、後半でアメリカのメジャーリーグや国内のプロ野球、夏の甲子園などシーズン中のスポーツを放送している。次に、「戦争・紛争」の項目が21.5%と高い割合を示している。これは、ハマス最高幹部殺害を受けてイランが数日のうちに報復の可能性を示唆したため、その関連ニュースが大きく報道されており、またヒロシマの日のニュースもこの項目に含まれるため、割合が高くなっている。さらに、「経済」が13.3%と比較的高い割合を占めている。これは、株価が前日に大幅に下落したものの、6日には大幅に反発したため、株価の乱高下として報道されている。さらに、「政治」では、アメリカ大統領選に関連してカマラ・ハリス氏が民主党の大統領候補に指名されたため、比較的割合が高い。「暴動」については、イギリスで偽情報を元に人種差別的な暴動が起こったことが

影響している。全体的には政治や経済、戦争、暴動などハードニュースの割合が高い。

表3 ヒロシマのニュース一覧（2024年8月6日）

放送局	ニュースタイトル	時間量
NHK	「原爆の日」追悼の祈り	0:07:08
	「核なき世界」への道のり	0:04:40
TBS	79回目の「原爆の日」渋谷に「きのこ雲」ARで疑似体験	0:03:57
テレ朝	広島への原爆投下から79年	0:03:18
	“模擬原爆”知られざる実相	0:09:45

表3は番組内で扱われたヒロシマのニュースの一覧である。NHKとテレビ朝日（テレ朝）では2項目ずつ放送している。いずれも、最初のニュースでヒロシマの記念式典を報じるニュースを扱い、2つ目のニュースは特集のような扱いである。NHK「『核なき世界』への道のり」では、国連事務次長の中満泉氏の独占インタビューを実施している。彼女は平和記念式典でも平和の重要性を国連の立場を代表してスピーチした人物である。

TBSはヒロシマのニュースは1つのみであり、平和記念式典の映像を用いながら、大学生が開発したアプリを使って渋谷の上空にきのこ雲が出現するAR（拡張現実）技術を示し、戦争を経験していない若い人にも関心を持ってもらおうとする取り組みを紹介している。

テレビ朝日でもNHKと同様に2項目あり、1つ目は平和記念式典を中心に、2つ目のニュースでは、米軍が原爆投下の訓練のために日本各地で

投下した「模擬原爆」を扱っている。

### 3.2. ヒロシマのニュース構成

表4はテレビ朝日の1つ目のニュースを分析したものである。本調査では表3にある5つのニュース項目すべてを同様の分析シートを用いて文字化した。ここでは一例としてテレビ朝日のニュースを用いる。

表4 ヒロシマのニュース分析

	映像：場所、登場人物の性別、年齢、人種・民族的背景、行動、色調、カメラワーク等	音声：発言内容、ナレーション、BGM、現場音、効果音
スタジオ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性キャスター（26歳、白のシースルーのカットソー）</li> <li>・背景に記念式典の様子を映し出すモニター</li> </ul>	<p>女キャ：広島への原爆投下から79年、今日行われた記念式典では、小学生2人が切実な思いを世界に訴えました。</p>
式典	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原爆ドーム：Zoom-in</li> <li>・小学6年男子、女子CU</li> <li>テロップ：ニュースタイトル</li> </ul>	<p>男性ナ：忘れてはならない、今年も、小学生女子：ある被爆者は言います、あの日の広島は地獄だったと。</p>
CM	—	—
記念式典1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未明に祈る女性：カメラ後ろから</li> <li>・女性（60代）インタビュー（不鮮明）顔CU：辛そうな表情／平和像の炎CU</li> <li>・原爆ドームCU</li> <li>・平和の鐘をつく小学6年女子、40代男性（スーツ）</li> <li>・黙とうするスーツ姿の集団LS</li> <li>・黙とうする一般参加者たちLS</li> <li>・黙とうする岸田首相（スーツ）BS</li> <li>テロップ：広島市 松井一實市長 発言内容：黄色</li> <li>・広島市長（60代）スーツ：スピーチ</li> <li>・岸田首相（黒のスーツ）CU</li> <li>テロップ：岸田文雄総理大臣（紺、背景白）発言内容（黄色）</li> </ul>	<p>男性ナ：夜明け前から祈りを捧げる人々が後を絶ちません。</p> <p>女性イン：どうかどうか、平和になるように</p> <p>男性ナ：79年前の今日、この広島で人類史上初めて原爆が投下されました。</p> <p>男性：黙とう</p> <p>鐘の音</p> <p>蝉の声</p> <p>広島市長：混迷を極める世界情勢をただ悲観するのではなく、先人たちと同様に決意し希望を胸に心をつ一つにして行動を起こしましょう。そうすれば核抑止力に依存する為政者に政策転換を促すことができるはずです。</p> <p>岸田首相：「核兵器のない世界」の実現に向けて努力を着実に積み重ねていくことは唯一の戦争被爆国である我が国の使命です。</p>
記念式典2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手を合わせる女性（80代、喪服）CU、背景に原爆ドーム</li> <li>・平和像に手を合わせる男性（70代、ポロシャツ）CU</li> <li>・式典参加するイスラエル駐日大使CU（黒スーツ、50代）</li> <li>テロップ：イスラエル ギラッド・コーヘン駐日大使</li> <li>・小学男性、女性Zoom-in／CU</li> <li>・小学生2人の後ろ姿／背景に岸田首相を中心とする参列者</li> <li>・小学男子、女子：発言</li> </ul>	<p>男性ナ：原爆後に亡くなった被爆者はおおよそ34万人、式典には今もパレスチナ自治区ガザへの攻撃を続けるイスラエルの駐日大使の姿も、出口の見えない世界中の争いに、地元の小学生たちは平和を訴えたのです。</p> <p>小学女子：今なお世界では戦争が続いています。79年前と同じように生きたくても生きることができなかった人たち、明日を共に過ごすはずだった人を失った人たちがこの世界のどこかにいるのです。</p> <p>小学男子：本当にこのままでいいのでしょうか。願うだけでは平和は訪れません。色鮮やかな日常を守り平和を作っていくのは私たちです。</p>

表4にあるとおり、8月6日のヒロシマのニュースは平和記念式典の模様を中心に伝えられている。例年、同日は未明から平和記念公園を訪れて、慰霊のために手を合わせて祈る人が多数いる。ニュース映像でも、「記念式典1」のセグメントで、まだ夜明け前の暗い色調の画面で祈る女性を映し出している。

式典では、小学生（女子）と遺族の代表者（男性）が平和の鐘を突く様子が報じられ、「黙とう」という男性の声とともに参加者が黙とうを捧げる。その際の参加者をクローズアップで映し出している。テレビ朝日のニュースでは、岸田文雄首相（記念式典1）がクローズアップされている。さらに、広島市長（男性・60代）と岸田首相のスピーチが取り上げられている。核抑止力の政策を求める広

島市長の後に、岸田首相が「『核兵器のない世界』の実現に向けての努力」の必要性を訴えるという構図になっている。

そして、「記念式典2」のセグメントでは中東の紛争で注目されているイスラエルの駐日大使の顔がクローズアップされている。その後に、小学6年生男女のスピーチがあり、「戦争が続いている」ことの問題点や「本当にこのままでいいのでしょうか」と呼び掛ける構成となっている。

### 3.3. ヒロシマのニュースでCUされる人物

表5は表3で示した5つのヒロシマのニュースに登場する人物のうち、クローズアップ（CU）される人を年齢層、性別に分類したものである。

表5 ヒロシマのニュースでクローズアップされる人：年齢層×性別

年齢層 放送局	10歳未満		10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代		90代	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
NHK	3	3	3	1	1	1	1		1				4	1		1	1	1	5	
TBS			1	1						1		1	1							
テレ朝			2	1		2				1		1		2	1	3	1			
計	3	3	6	3	1	3	1	0	1	2	0	2	5	3	1	4	2	1	5	0
	6		9		4		1		3		2		8		5		3		5	

表5の年齢層を見ると、10代が9人と最も多く、次いで60代が8人、10歳未満が6人、70代と90代が5人、20代が4人と続く。この結果から、子ども・若い人と高年齢層の人物が多く登場していることがわかる。30代は1人、40代は3人、50代は2人と少ない。また、60代以上の登場人物が21人と非常に多く、クローズアップされる人46人のうち、半数近くを占めている。さらに、10歳未満、10代、20代の合計人数は19人である。この結果から、子ども・若い人と高齢者が多数登場していることが確認できる。

そして、女性は25人、男性21人であり、合計46人のうち半数以上を女性が占めていることになる。ヒロシマのニュースでクローズアップされる人物は、黙とうを捧げる際の目を閉じた顔、平和の像に手を合わせて祈る際の顔などである。何も発言

せず、黙って祈りを捧げる場面で女性が比較的多く登場していることがわかる。

### 3.4. ヒロシマのニュースで発言する人物

表6は表3で示した5本のヒロシマのニュースに登場する人物のうち、会見やスピーチ、街頭インタビュー、取材などで発言する人を年齢層、性別に分類したものである。

表6の年齢層に注目すると、10代は9人と最も多く、次いで20代と60代がともに6人と続く。さらに、70代が4人、80代1人、90代2人であり、60代以上の登場人物が13人と非常に多い。また、10歳未満、10代、20代の合計は16人である。発言する人物の総数は32人であり、その半数が子ども・若い人である。そして60代以上が13人であることから、クローズアップされる人物と同様に、



表 6 ヒロシマのニュースで発言する人：年齢層×性別

放送局	10歳未満		10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代		90代	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
NHK			2	1			1						4		1	1			2	
TBS		1		2	3	1				1		1								
テレ朝			2	2		2							1	1		3				
計	0	1	4	5	3	3	1	0	0	1	0	1	5	1	0	4	1	0	2	0
	1		9		6		1		1		1		6		4		1		2	

発言する人物も子ども・若い人と高齢者に偏っていることが確認できる。

ただし、広島市長や岸田首相は60代であり、高齢者層の人物すべてが戦争の悲惨さを訴える人（例えば遺族）ではなく、政治家も含まれている点も留意したい。

そして、性別に注目すると、発言する人物32人のうち、女性16人、男性16人と半数ずつである。これは、戦争経験者や被爆者がかなり高年齢、つまり90代として登場している人物が複数おり、それがすべて女性であるためだ。

4. 結論

ヒロシマのニュースの分析から、戦争の悲惨さ、平和の重要性を訴える際には子ども・若い人および高年齢層の人の存在が強調されることがわかった。高年齢層の人は戦争経験者、被爆者あるいは遺族として登場しており、戦争の悲惨さを訴える。また、そうした訴えを語り継ぐ、引き継ぐ存在として子ども・若い人が登場している。これは従来のヒロシマのニュース、戦争や平和を提示されるときによく使われる表現である。これらの結果から、2024年のヒロシマのニュースでも例年と同じような表現が使われていることが確認できた。

そして、高年齢層の人のうち、90代の人物が登場している点に注目したい。女性の平均寿命を超える年齢であり、非常に高い年齢層である。被爆者や戦争経験者の人数が急速に減少していることの表れだろう。戦後79年を迎えて、被爆者や戦争経験者として登場する人物が少なくなっており、今後、こうした表現方法、被爆者による証言や体

験談をもって戦争の悲惨さを訴える手法が難しくなっていくことが予想される。平和を訴える際の表現方法の変更が迫られていると言えるだろう。

また性別に着目すると、ニュースの登場人物として女性の人数が多い。世界のニュースメディアを分析したGlobal Media Monitoring Projectによれば、ニュースに登場する人物<sup>3)</sup>の性別割合は女性25%、男性75%であり（Macharia 2020）、一般的なニュース報道では女性が圧倒的に少ない。しかし、ヒロシマのニュースではクローズアップされる人物46人のうち女性は25人と過半数を超えている（表5）。これらは、手を合わせて祈る女性の姿や、黙とうで目を閉じる高齢女性の顔などがクローズアップされた結果である。こうした女性の表象は、平和を祈り、戦争の悲惨さを表現するために提示されており、これは従来のステレオタイプな表現方法を踏襲するものと言える。

また、発言する人物32人のうち女性は16人と半数を占めている。男性の発言者に注目すると、広島市長や岸田首相など男性政治家がどの番組でも共通して登場する。その一方で、女性の発言者を見ると、被爆者やその遺族など60代から90代の高齢女性が自身の体験を述べる。ここでも、女性は戦争の悲惨さを訴える存在としてステレオタイプの登場している。

ただし、TBSでARの技術を用いて原爆の怖さを訴える大学生は女性であり、国連の代表として平和記念式典でスピーチした人物も女性である。女性を力がない、弱い存在として提示される方法にも変化が見られ、こうした点は、戦争の悲惨さや平和を訴える表現方法の広がりを示すものと言えるだろう。

一方、ヒロシマのニュースにあまり登場しない年齢層に着目すると、それは30代、40代、50代の年齢層である。クローズアップされる人物、計46人のうち30代から50代の人物は6人であり、少数と言える。また、発言する人物、計32人のうち、30代から50代の人物は3人のみである。子どもや若い人は将来を担う世代として、高齢者は戦争を知る世代として提示されるが、30代から50代の人物はヒロシマのニュースにあまり登場しない。つまり、戦争の悲惨さ、平和の重要性を伝える際には重視されない世代である。しかし、平和とは日々の生活であり、そうした日常に責任を持つはずの現役世代が登場しないことは、メディアの表象において欠落している視点と言えるのではないだろうか。年齢やジェンダーに関するステレオタイプな表現方法の再検討がヒロシマのニュースを伝える際の新しい表現方法として必要ではないかと考えられる。

## 注

- 1) NHKスペシャル『原爆 いのちの塔』(2024年8月6日)、『新・ドキュメント太平洋戦争1944 そして銃後は消滅した』(2024年8月15日)、テレビ朝日『僕たちは戦争を知らない：戦禍を生きた女性たち』(8月13日)など多数の戦争関連番組が放送されている。
- 2) 夕方のニュース番組はNHKでは19時台の『ニュース7』、民放各局では16時ごろから開始され19時前まで放送されている。夕方の時間帯の方が長く見えるが、実際には情報番組として構成されており、いずれの民放局も17時前から30分程度を全国放送のニュース番組として構成している。ここでいう夕方のニュース番組とはその全国放送の部分を目指す。
- 3) Global Media Monitoring Projectの調査での登場人物とは、発言する人およびニュースの主人公(発言しない場合も含まれる)であり、本調査とは登場人物をカウントする方法が異なる。

## 引用文献

橋本晃(2006) 国際紛争のメディア学, 青弓社。  
Inoue, Yasuhiro (2006) How did world major

newspapers report 'Hiroshima'? : International comparative study of coverage on the 60<sup>th</sup> anniversary of the atomic bombing, *Hiroshima Journal of International Studies*. 12, 103-127.

Inoue, Yasuhiro & Rineert, Carol (2007) Editorial reflections on historical/ diplomatic relations with Japan and the U.S.: International newspaper coverage of the 60<sup>th</sup> anniversary of the Hiroshima bombing, *Keio Communication Review*. 29, 59-83.

Macharia, S. (2020) Who Makes the News: Global-Media Monitoring Project 2020. World Association for Christian Communication: London.

松田浩(2001) 戦後メディアの成立, 山口功二, 渡辺武達, 岡満男編, メディア学の現在, 世界思想社, 218-238.

酒井直樹(2007) 日本／映像／米国：共感の共同体と帝國的国民主義, 青土社。

佐藤卓己(1998) 現代メディア史, 岩波書店。

鈴木木どり編(2013) 最新Study Guide メディア・リテラシー入門編, リベルタ出版。

Tomaru, Asuka (2013) The Japanese Media and Hiroshima: Are we members of Obamajority? 文京学院大学人間学部紀要, 13, 139-148.

## 参考文献

児玉克哉, 佐藤安信, 中西久枝(2004) はじめて出会う平和学：未来はここからはじまる, 有斐閣。

Lynch, Jake & McGoldrick, Annabel (2005) 太平洋戦時下の新聞メディア, マスコミュニケーション研究. 66, 5-19.

佐藤卓己(2014) 増補 八月十五日の神話：終戦記念日のメディア学, 筑摩書房。

(2024.9.25受稿, 2024.11.3受理)